

防災シリーズ No.12

「自助」・「共助」で減災、「安心なまち おおたけ」に



市内でのボランティアによる活動

問い合わせ 総務課 ☎2119

昨年は、多くの尊い人命が失われた広島市の土砂災害をはじめ、本市でも50年に一度という豪雨災害に見舞われた一年でした。このような突発的な豪雨は近年の特徴であり、発生が予測が難しいと言われていていすれも、大雨が夜間に降ったことから災害対応が困難を極め、今後課題が残る結果となりました。

こういった近年の災害発生状況から、自分の身は自分で守るという「自助」、地域の助け合いである「共助」、被災者のためにとても重要な減災のためにも重要となります。

1「自助」から

災害時には、まず自分や家族の安全を確保しないと地域の安全は守れません。いつ発生するかわからない災害に備え、平素からできることを今一度考えておきましょう。

○わが家の周りの危険場所（土砂崩れや浸水箇所）をハザードマップで確認しておきましょう。

○家族で避難場所や避難路を決めておきましょう。道路の浸水など、外の状況によっては屋内にとどまること

2「共助」の促進

①自主防災組織の活動
災害時には、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災活動が大きな役割を担います。昨年8月の広島市の土砂災害のときも、自主防災活動の中で早めの避難に取り組んだ地区がありました。

大竹市では現在47地区の自治会で自主防災組織が結成され、連絡網や防災マップの作成、防災訓練など活発に活動

が適切な場合があります。

○最低3日分の飲料水や食糧を準備しておきましょう。水は一人1日2リットル程度必要と言われています。

○地震が発生したときに寝室に倒れそうな家具などがないか確認し、あれば固定するなどの対策をしましょう。

○災害時の情報（気象の警報や注意報、市からの避難に関する情報など）の入手方法を確認しておきましょう。（テレビやラジオ、防災行政無線、メールなど）

○隣近所や自治会と災害時の協力（連絡網や避難時の助け合いなど）について話し合っておきましょう。

しており、災害から地域を守るという意識が年々高くなっています。

「継続は力」
繰り返しの訓練が
あなたと地域を守ります
各地区の自主防災組織活動を紹介します。

玖波八丁目自主防災会

平成26年12月14日に、総勢約90人の参加により、消火訓練や炊き出し訓練を実施しました。また、緊急時に情報を迅速に地区の住民へ伝えるために防災行政無線使用訓練も実施しました。



炊き出し訓練

元町二丁目自主防災組織
平成26年11月に避難訓練などを、12月25日には防犯・防災部と子ども会の約40人で夜間に地区の見回りを行い、住民の方が安心して暮らせるように「火の用心・戸締り用心」の呼びかけをしました。さらに1月17日には、毎年恒例のどんど祭りに併せて消火訓練を実施しました。



地区の夜回り



消火訓練

南栄二丁目自主防災会

1月18日に毎年恒例のどんど祭りに併せて消火訓練、炊き出し訓練を実施しました。消火訓練では、いざというとき上手く消火器を使用できるようにすることを目的に、消防団員の指導により水消火器を使って訓練を実施しました。また、おいしい炊き出しで盛り上がり、地区のコミュニケーションも高まりました。



消火訓練

このように最近では多くの組織が地区の行事と併せて防災訓練を実施しています。楽しい地区の行事と一緒にやることで、防災訓練も和やかに楽しく行えます。また、多くの子どもも参加があるので、地区の将来の防災を担う人材育成にもつながります。

心の動揺などでなかなかすぐに体が動いてくれません。無意識に体が動き出すようになるためにも、訓練を繰り返して実施することが大切です。

※ 自主防災組織には、次のように市から防災活動への支援制度があります。

○組織結成時には、防災資機材を支給します。（ヘルメット・スコップなど）

○防災訓練や防災マップの作成に必要な経費を助成します。（年1回、限度額2万円）

自主防災組織の未組織の自治会はぜひ結成に向けて取り組んでいただきますようよろしくお願ひします。結成のためのご相談は、総務課までお気軽にどうぞ。

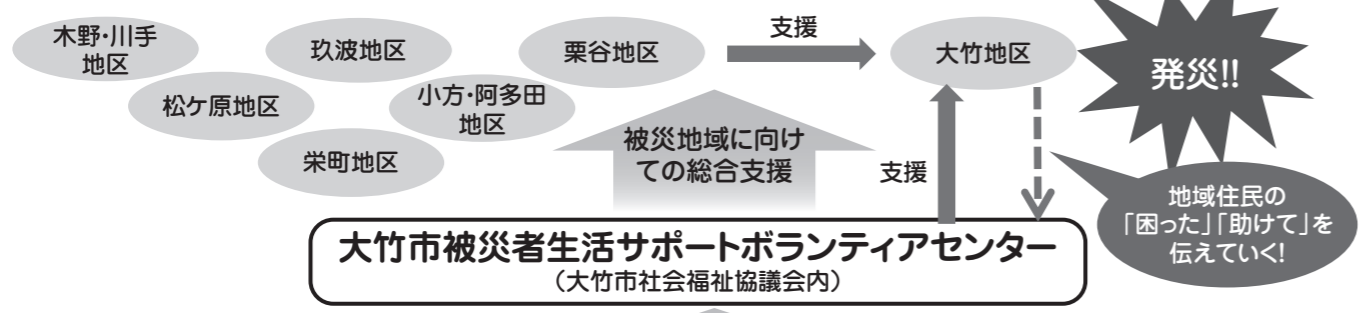
②「大竹市被災者生活サポートボランティア」の活動

市内に大きな災害が発生し、被災者の生活支援（家屋内外の片づけや避難場所での支援など）が必要となった場合には、市社会福祉協議会に「大竹市被災者生活サポートボランティアセンター」が設置されます。このボランティアセンターで市内の被災状況や被災者からのニーズを把握し、ボランティアを募集したり、市

内外から集まったボランティアを活用して実際の支援にあたらせることとなります。ちなみに昨年8月に発生した本市と広島市の土砂災害には、大竹市内からも合計30人が両市内のボランティア活動に参加し、市社会福祉協議会の職員も現地でボランティア活動の調整にあたっています。

「大竹市被災者生活サポートボランティア」はこのような災害時に設置するボランティアセンターの円滑な運営のため、平素からボランティアの確保や養成、防災・減災情報の収集、ボランティアセンターの運営体制など「共助」の仕組みを構築する市全域のネットワークです。現在、市社会福祉協議会を中心に自治会連合会、ボランティア連絡協議会、民生委員児童委員協議会、身体障害者福祉協会、老人クラブ連合会、青年会議所、市内の介護福祉施設、各地区社協、広島県社協、大竹市でネットワークを構成しています。いざというとき、被災者支援の大きな力となるボランティア活動が円滑に進められるよう現在マニュアル作りに取り組んでいます。

災害時のボランティア活動の体制イメージ



災害時に備えた日頃からのネットワーク

